

樹名板づくりで 木々の成長を実感

10月24日、総合公園西側で「樹名板づくり第8回育樹祭」が開催されました。

この催しは、これまでの植樹祭で植えた木に樹木名を書いた板を取り付けるものです。参加者は、文字をデコレーションしたり、イラストを書いたり、自分だけのオリジナル樹名板を作成。草取りなどの手入れを行った後、自らの手で樹名板を結び付けました。木々の成長を実感するとともに、さらに愛着を持つことができたようです。



イオンモール羽生で 住宅用火災警報器設置をPR

平成元年11月1日に県内で初めて女性消防団員が採用されたことから、11月1日を「埼玉県女性消防団員の日」としました。これを受け、埼玉県が11月1日にイオンモール羽生で「埼玉県女性消防団員の日」創設記念FESを開催。本市の女性消防団「甲斐姫隊」も参加しました。

この日、甲斐姫隊は住宅用火災警報器設置を訴える寸劇を披露。消防本部で結成した「浮き城消防隊住警器マン」も応援に駆け付け、ステージ上でコミカルな動きやダンスなどで住宅用火災警報器設置の大切さをアピールし、来場者の注目を集めていました。



抜群のハーモニーを響かせて

10月29日、産業文化会館ホールで第68回行田市小・中学校音楽会が行われました。

この日のために練習を積み重ねてきた各学校の児童・生徒らは、息の合った合奏や澄み切った歌声を披露。会場には抜群のハーモニーが響き渡り、応援に駆け付けた家族など大勢の観客を魅了しました。演奏終了後、ほっとした表情を浮かべる子供たちに対し、会場から惜しみない拍手が送られていました。



力強いサケの生命を感じて

11月14日、利根大堰でサケの遡上・採卵観察会が行われました。

あいにくの雨にもかかわらず、サケの採卵を一目見ようと多くの親子連れが来場。子供たちは、サケの腹から卵を取り出す様子を真剣な眼差しで見つめていました。大堰自然の観察室でも、遡上するサケの力強い泳ぎを見ることができ、来場者は普段なかなか知ることのできないサケの生態について学ぶことができたようです。



新たな試みでパワーアップした 忍城時代まつり

11月15日、市役所周辺で第36回行田商工祭・忍城時代まつりが開催されました。

地元商工業者による物産大バザールや忍城址での火縄銃演武などのアトラクションで、毎年にご覧を見せるこの催し。恒例となっている武者行列では、甲冑を身に付けた出演者が清善寺で「勝ちどき」を行うなどいつもと違った演出で観客を魅了しました。また、今年は新たな試みとして「ベスト足袋ニストコンテスト」を実施。出場者は自分が考案した足袋にマッチする衣装を着て、審査委員に自分のこだわりなどをアピールしました。どれも個性的なものばかりで、来場者は足袋の奥深さに関心を寄せていました。



地域の絆で優勝を目指せ!

10月25日、第65回市民体育祭が総合公園自由広場で開催されました。

市内15地区から選ばれた選手たちは綱引き、男女混合小学生リレー、紅白玉入れなどの競技に出場。強風の中全力で競技に臨み、それぞれの地域が一丸となって優勝を目指しました。大会を通じて、大人から子どもまでスポーツを満喫するとともに、地域の絆を一層深めることができたようです。



ひたむきなプレーで観客を魅了

11月3日、総合公園野球場で第5回行田野球フェスティバルが開催されました。

行田市野球連盟が主催したこのイベントには、甲子園出場経験がある高校が毎年参加し、レベルの高い試合で観客を魅了しています。今年は初めて大宮東高校が出場。進修館高校と不動岡高校を加えた3校で、白熱した試合を繰り広げていました。観客らは球児のひたむきなプレーを目の当たりにし、改めて高校野球の素晴らしさを感じているようでした。

